

あきた白神農業協同組合臨時総代会



安心して農業経営ができる体制づくりを支援し、地域社会への貢献による信頼されるJAを目指す

臨時総代会

3月27日に「臨時総代会」が能代市文化会館で開かれました。臨時総代会には、総代500人のうち、実出席220人、書面議決233人、委任状4人の合計457人が出席。平成29年度事業計画など全6議案のほか、付帯決議を協議し、すべて原案通り可決されました。

はじめに佐藤組合長が、「第七次3カ年計画の初年度として、農業構造の変化に対応した地域農業の振興、心豊かに安心して暮らせる地域社会の実現、地域に根ざし組合員に向き合う事業展開を行ってきた。経営面では、全ての事業が厳しい事業展開を余儀なくされる中、組合員の理解と協力によって、今年度も計画を上回る剰余金を見込める状況となった。平成29年度は、第七次3カ年計画の2年度として、計画を確実に実行して行くと共に、厳しい経営環境を直視し、将来を見据えた事業運営の改革を着実に進めいく」とあいさつ。

また、平成30年4月をめどとする、JA秋田やまもとのとの合併については「今後は合併研究会から合併推進協議会に移行し、農政に

ついて多様化・高度化する組合員・地域住民に持続的に対応できるように両JAで、組合員の声を聞きながら慎重に協議を行っていく」と述べました。

平成29年度の計画販売額は、57億5400万円の前年度対比104.1%。内訳は、米35億9400万円（105.9%）、大豆・雑穀1億5500万円（97.0%）、農林産物（野菜、菌茸、花きなど）18億円（101.9%）、畜産物2億300万円（98.3%）、このうち野菜は1億3400万円（101.2%）を計画し、ねぎ13億円、山うど1億2400万円、きゃべつ9千万円、みょうが1億600万円などと設定しました。